

# 北海道からの4人のお友達

## 姉妹校浦臼小から大篠小へ



図画などの作品を交換

十月三十一日、大篠小学校（西森善郎校長、八百十人）に、姉妹校の北海道樺戸郡浦臼町浦臼小（竹田仁一校長、百十八名）から、竹田校長や五、六年生の児童四人など七人が訪れ、盛んな歓迎を受けました。

大篠小と浦臼小が姉妹校縁組みをするきっかけになったのは、住吉野出身で、明治時代国会議員を辞めて北海道に入植した武市安哉（一八四七—一八九四年）。キリスト教主義による理想の農村建設を志し、浦臼小学校の前身も築いた、偉人伝の

人です。県北海道事務所を通じて話が進み、昭和五十五年一月に姉妹校縁組み。それ以来、互いに訪問し合ったり、児童の作品やじゃがいも、なし等の特産物の交換などの交流を続けてきました。昭和六十一年には、大篠小から五十五人の訪問団が浦臼を訪れています。浦臼小では、前回の訪問から四年がかりで、廃品回収などを行い、町の補助なども受けて、今回の訪問が実現したものです。

大篠小学校では全校児童が浦臼小の校歌で一行を迎えました。大篠小六年の遠近夏子さんは、「毎年送ってくれるじゃがいもはポテトチップスにして食べています。北海道の広い大地ですばらしい体験を教えてください。」歓迎のあいさつ。浦臼小六年の小松史章君は、「二つの学校は深いつながりがあると感じ、ぜひ訪問したかった。たくさんのお話を聞きましたし、心に留め、全校児童に報告します。スキー場もできることになっているの

でぜひ来てください」とあいさつ。浦臼小の児童は、一人ひとり自己紹介した後、今回の訪問のために全校児童で作った作品でスキーや雪中運動会など、浦臼の四季を紹介。祖先の地へ来た思いを込めて「ふるさと」を合奏しました。図画などの作品を交換し、歓迎式の最後に大篠



## 環境と伝統を 未来への原動力に 農業高校創立100周年

県立高知農業高校（長岡寛校長、八百二十九人）が創立百周年を迎え、十一月十六日、完成したばかりの体育館で盛大に記念式典が行われました。

同校は、明治二十三年に高知市北門筋で開校し、大正十二年に現在の場所に移転。一万六千人の卒業生は、地域経済の発展に貢献するなど、県内外で活躍しています。県下では追手前高

小の六年生の児童が全員で「旧友」を演奏。

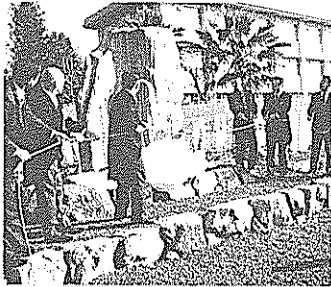
この後、浦臼小の児童は、一人ずつ分かれて一日入学。勉強や給食を楽しみ、交流を深めました。

午後には、市役所や武市安哉の生地を訪れ、祖先のふるさとの地を味わっていました。



校などに続き、四番目の百周年式典には卒業生や関係者など一千三百人が出席。上岡校長は「本校の百年はわが国の農業教育の歩み。環境と伝統は未来への原動力になる。使命を再確認し、協調、剛健、勤労、誠実の校風の下に、全校一枚岩となつてまい進する」とあいさつ。

式典に先立ち、農業教育資料館横に建立した記念碑の除幕も行われました。また、百周年を記念して学園祭なども行われ、



記念碑を除幕

農業高校ならではの、実習で作ったハムの販売等に人気が集まっていました。



住宅に関する情報が満載

### 十市パークタウンで

### 香美・南国建築祭

住宅に関する設備や法律への理解を深めてもらうと、第18回香美・南国建築祭が11月2日から4日までの3日間、十市パークタウンで開かれました。

この建築祭は高知県建築士会香美南国支部、南国市建築協会などが主催して、毎年、南国市香美郡を巡回しながら開いているものです。今年は、十市保育所園児が十市太鼓を披露したほか、親子木工あそびや南国うまいもの展なども開かれ、折から開かれていた住宅展への来場者など多くの人手でにぎわいました。